

I. ポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

小樽駅前では、「小樽駅前第3ビル周辺地区第1種市街地再開発事業」が完了し、平成21年7月にサンビルスクエアがオープンしてから2年が経過し分譲マンションはほぼ完売したことから居住者も増加しており、ホテル、商業施設においても順調に営業が行われている。また、JR小樽駅においても昔の駅舎の面影を再現するべくリニューアル事業が実施されており、小樽の玄関口として更なる魅力付けがなされているところである。

更には、小樽駅前にある大型店舗は、JRをはじめ各種公共交通機関の利便性に優れた位置的特性を有し集客力の大きな施設の一つであるが、平成23年3月に全面リニューアルを行い品そろえを充実するとともに、利便性を向上させる等集客力のさらなる増加を図るため営業時間を2時間延長するなど中心市街地とりわけ小樽駅周辺の活性化に寄与している。

活性化区域内の中央部や北部でも地域資源の活用が進められ、中央部にある旧国鉄手宮線では、旧色内駅舎をモチーフとした休憩所の整備や、小樽文学館・美術館のリニューアル等が完了し、平成23年には本市の代表的な冬のイベントである雪あかりの路の会場としても利用された。また、北部にある国指定重要文化財旧日本郵船(株)小樽支店の周辺では、平成22年末に電線類の地中化が完了し、観光資源の充実を図った。これらの整備により歩行者の増加や観光客の回遊性の向上が期待される。

一方、東日本大震災などの影響による観光客の落ち込みは、4月には対前年で4割減にも達するなど非常に大きいことから、観光客の増加対策の一環として札幌の宿泊者を小樽に呼び込むために往復バス乗車券を贈呈するなどの「10,000人ウェルカム事業」や市内に宿泊する観光客1名につき1,000円の「観光振興券の配布」、更には台湾や中国などへの観光客誘致のトップセールスなどを実施し観光客数の回復につとめてきた。

基本計画に掲げられている主な事業55事業のうち14事業が完了し2事業が休止、ソフト事業など39事業が実施中の状況であり、ほぼ計画通り着手されるとともに基本計画に記載されていない関連事業も積極的に実施している。しかし、旧丸井今井小樽店の空き店舗状態の長期化や当初想定していなかったホテルの閉鎖、更には長引く日本経済の低迷による消費の手控え、東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故の影響による国内外からの観光旅行のキャンセルや自粛等により、全体として各種事業実施による波及効果が十分に発現されていない状況にある。

このため、今後は、旧丸井今井小樽店の一刻も早い再生に向けて、中心市街地活性化協議会・小樽商工会議所・小樽市などが連携して必要な支援、取組みを行うとともに、基本計画掲載事業の着実な推進を行い、更には旧国鉄手宮線の整備等により中心市街地の魅力度の向上に努めていく。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	見通し
回遊性を高めることによる、まちなかのにぎわい創出	中心市街地の歩行者通行量	29,627人 (H19)	31,700人 (H24)	22,021人 (H23)	②	②
居住環境の整備等による、まちなか居住の促進	中心市街地の居住人口	14,455人 (H19)	15,000人 (H24)	14,108人 (H23)	②	②
宿泊滞在型観光への転換による、まちなかでの宿泊の促進	中心市街地の宿泊客数	438,846人 (H18)	455,000人 (H24)	393,934人 (H22)	②	②

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

① 「中心市街地の歩行者通行量」について

・各種ソフト事業の継続的な実施や発展的に定着した事業の増加などにより一定の効果があつたものと考え、旧丸井今井小樽店の閉店の長期化や当初想定していなかった同建物内にあるホテル閉鎖、更には長引く経済状況の低迷、東日本大震災の影響による観光客数の減少等により基準年に比べ歩行者通行量が減少しており、このままでは目標達成は困難であると見込まれ、今後中心市街地のにぎわいの創出を図るため事業の拡充や追加が必要である。

② 「中心市街地の居住人口」について

・基本計画の核である「小樽駅前第3ビル周辺地区第1種市街地再開発事業」により建設された民間住宅は117戸中116戸が成約済みであり、まちなかの居住促進に寄与している。また、平成23年における新築マンションの建築戸数は増加しており建築需要の回復の兆しがうかがえる。しかしながら厳しい社会経済情勢の影響や、旧丸井今井小樽店の閉店の長期化及び当初想定していなかった同建物内にあるホテル閉鎖等の影響による中心市街地の魅力度の低下により当初の想定以上に人口が減少し、このままでは目標達成は困難であると見込まれることから、中心市街地の魅力向上に努めるとともに、人口の増加対策の拡充や新たな対策の追加が必要である。

③ 「中心市街地の宿泊客数」について

・雪あかりの路等の主要な事業の多くが計画通り進められている。また、台湾や中国などへの観光客誘致のトップセールスの実施や外国人旅行客を対象とした新千歳空港～小樽間の無料バス運行等により観光客の増加が期待される。しかしながら、厳しい社会経済情勢や東日本大震災の影響により宿泊客数が大きく減少し、このままでは目標達成は困難であると見込まれる。今後は、観光地としての中心市街地の魅力向上を目指すため事業の拡充や追加が必要である。

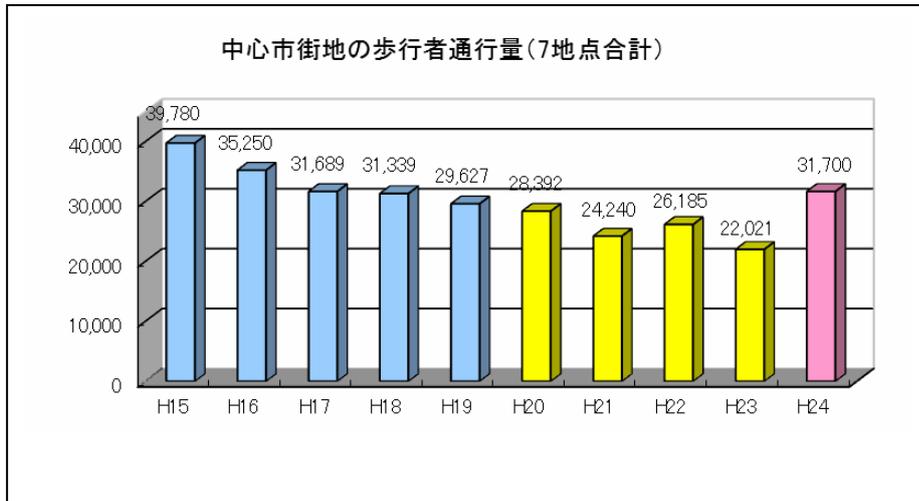
4. 今後の対策

基本計画掲載事業の着実な推進に努めるとともに、旧丸井今井小樽店の長期間にわたる空き店舗化が指標数値の減少の大きな要因と考えられることから、その再生に向けた取り組みの実施や旧国鉄手宮線の整備等を行い、中心市街地の魅力度向上に努める等必要に応じて基本計画へ新たな事業の追加を検討し目標達成を目指す。

II. 目標毎のフォローアップ結果「回遊性を高めることによる、まちなかのにぎわい創出」

「歩行者通行量」→目標設定の考え方基本計画 P48～P54 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	29,627 (基準年値)
H20	28,392
H21	24,240
H22	26,185
H23	22,021
H24	31,700 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（平日、休日の歩行者通行量を、各年2回、毎年調査する）

※調査月；毎年6月、9月

※調査主体；小樽市産業港湾部商業労政課

※調査対象；歩行者のみ各月平日、休日各7地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 小樽駅前第3ビル周辺地区第1種市街地再開発事業

(小樽駅前第3ビル周辺地区市街地再開発組合)

事業完了時期	【済】平成21年7月
事業概要	小樽駅前という立地条件を生かし、中心市街地の定住人口の増加、都市防災性の向上、土地の高度利用化を目指し、商業施設、分譲マンション、ホテル、駐車場で構成される再開発ビルを整備する。
事業効果又は進捗状況	平成21年7月に全面オープンし、マンションは117戸中116戸が売却済みである。 商業施設は11店舗中10店舗が営業中であり、ホテルは247室が稼働している。

②. 病院・高齢者住宅整備事業

(近藤工業グループ、(株)光ハイツ・ヴェラス)

事業完了時期	【済】平成21年3月
事業概要	中心商店街の中に、病院の併設した適合高齢者専用賃貸住宅(特定施設入居者生活介護)を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成21年3月に適合高齢者専用賃貸住宅(特定施設入居者生活介護)(59戸)がオープンし、59人が入居済みである。 テナントのクリニック等は募集中である。

③. 小樽がらす市（中心市街地のソフト事業）

（小樽がらす市実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	小樽市の特産品であるガラス工芸の販路拡大、地場産業の振興を図るため、小樽市内にある十数箇所のガラス工房が一堂に会し、展示販売や製作体験などを行うイベント。
事業効果又は進捗状況	平成23年度に第3回目を開催し、3日間の入込は、昨年度を4千人上回る約3万1千人であった。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

小樽の代表的なイベントである「潮まつり」、「小樽雪あかりの路」及び「小樽がらす市」は、年々入込客が増加しており、更には「榎本武揚没後100年記念事業」が発展的に継続事業として定着したとともに各種ソフト事業も着実に実施されている。

東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故の影響で団体旅行、個人旅行ともキャンセルが相次いだことから観光客減少の大きな要因となり、特に4月の観光客は対前年比59%（15万人弱の減少）と大きく落ち込み歩行者通行量に大きな影響を及ぼしている。6月に実施された歩行者通行量調査の結果は、対前年比91%（約2,200人/日の減）と依然大きな影響を受けている。2回目に実施された9月の歩行者通行量調査は、天候不順や台風の影響の大きい期間に実施されたことが影響し対前年比78%（約6,100人/日の減）に減少し、6月と9月の平均歩行者通行量は、対前年比84%（約4,100人/日の減）となっている。しかし、各種事業や10,000人ウェルカム事業等の観光促進対策等の実施により観光客は回復傾向にあり、一定の効果が発現されているものと考えられる。

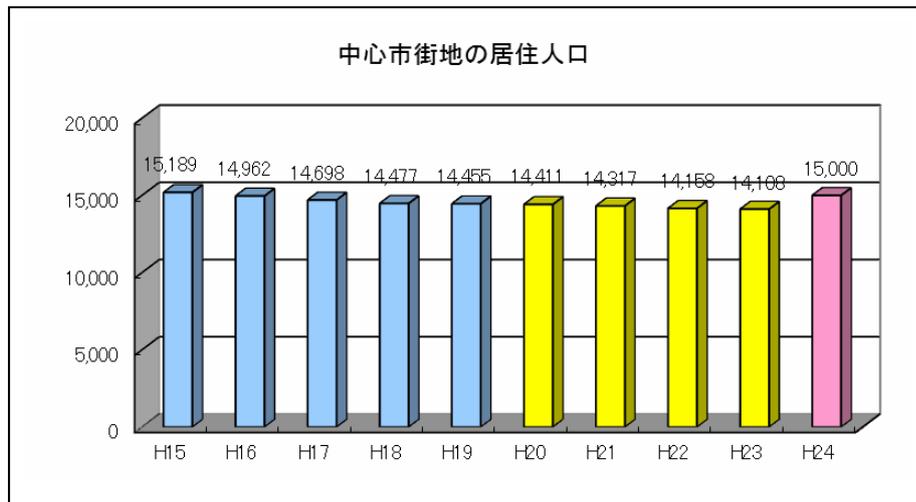
しかしながら、旧丸井今井小樽店の空き店舗状態の長期化や当初想定していなかった同建物内にあるホテルの閉鎖、長引く経済の低迷や東日本大震災の影響などにより、歩行者通行量は、基準年よりも約7,600人の減少となっており、このままでは目標達成は困難であると見込まれる。

今後は、歩行者通行量の増加対策に大きなポイントである旧丸井今井小樽店の一刻も早い再生に向けて、中心市街地活性化協議会、小樽商工会議所・小樽市等が引き続き連携を図るとともに基本計画掲載事業の着実な推進に努め、更には新たな事業として歩行者の回遊性に効果が期待される旧国鉄手宮線の整備を実施するものとする。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「居住環境の整備等による、まちなか居住の推進」

「居住人口」→目標設定の考え方基本計画 P55～P57 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	14,455 (基準年値)
H20	14,411
H21	14,317
H22	14,149
H23	14,108
H24	15,000 (目標値)

※調査方法；中心市街地区域での住民基本台帳人口

※調査月；毎年12月末

※調査主体；小樽市生活環境部戸籍住民課

※調査対象；中心市街地内居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 【済】小樽駅前第3ビル周辺地区第1種市街地再開発事業
(小樽駅前第3ビル周辺地区市街地再開発組合)【再掲】P4 参照
- ②. 【済】病院・高齢者住宅整備事業
(近藤工業グループ、(株)光ハイツ・ヴェラス)【再掲】P4 参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

基本計画の核となる事業の一つである「小樽駅前第3ビル周辺地区第1種市街地再開発事業」による民間分譲マンションは平成21年度に117戸が完成し、現在116戸が成約済みとなり193名が入居している。また、新規マンション等は、平成22年度には分譲されなかったものの、平成23年度には79戸分譲され104名が入居しており、まちなかへの居住が進んでいる。平成23年度の新築マンション等の建築戸数は基本計画における建築見込み数90戸に対して約9割近くに上っており、建築需要の増加の兆しが見えてきている。人口増加対策のソフト事業としては空き家バンク制度の創設を行い、市内に活用されていない空き家を流通させ、移住やまちなか居住対策として実施している。

しかしながら、平成23年の市内の一般住宅の建築戸数は、基準年である平成19年の建築戸数の3/4と落ち込む等建設の手控えや消費の抑制等の傾向は未だ厳しい社会経済情勢からの回復には至っていない状況である。

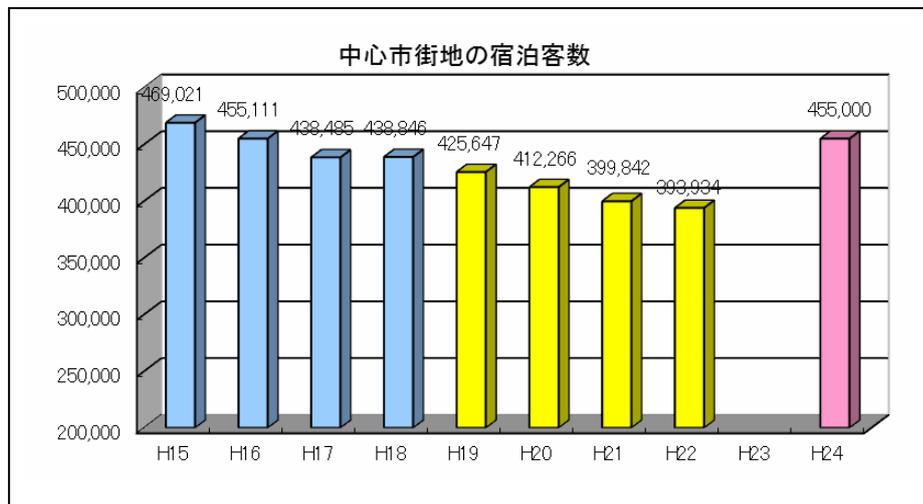
更には、旧丸井今井小樽店の閉店の長期化や当初想定していなかったホテルの閉鎖による中心市街地での雇用機会の減少や魅力度の低下等から、人口減少が当初の想定よりも進んでおり、このままでは、目標達成は困難であると見込まれる。

今後は、基本計画掲載の事業を着実に推進し中心市街地の魅力の向上に努めるとともに、旧丸井今井小樽店の再生に努め雇用の確保や人口の増加を目指すものとする。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「宿泊滞在型観光への転換による、まちなかでの宿泊の促進」

「宿泊客数」→目標設定の考え方基本計画 P58～P64 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H18	438,846 (基準年値)
H19	425,647
H20	412,266
H21	399,842
H22	393,934
H23	
H24	455,000 (目標値)

※調査方法；小樽市観光入込客数（各宿泊施設事業者からの報告）

※調査月；毎年4月～3月

※調査主体；小樽市産業港湾部観光振興室

※調査対象；中心市街地区域内の宿泊施設20件

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 小樽雪あかりの路（小樽雪あかりの路実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成10年度～（毎年2月に実施）
事業概要	小樽運河や旧国鉄手宮線のメイン会場のほか、商店街や町内会等市内各所に手作りのスノーキャンドルやオブジェが飾られる住民参加型のイベント。
事業効果又は進捗状況	観光入込客数は減少傾向にあることから、イベント期間中の日本人宿泊客数は約23,400人と基準年(H18)に比べ約4,000人減少しており、対前年数でも、約2,500人の減少となっている。また外国人宿泊客数は約5,600人と基準年(H18)に比べ約1,900人増加しているが、対前年数では約650人減少している。

②. 小樽ロングクリスマス（（社）小樽観光協会）

事業完了時期	【実施中】平成17年度～（毎年11、12月に実施）
事業概要	小樽観光の閑散期である11～12月に、市内の宿泊施設や観光施設等100以上の事業者が連携し、趣向を凝らしたクリスマスツリー等の装飾やスタンプラリー等のイベントを行う。
事業効果又は進捗状況	観光入込客数が減少傾向にあることから、イベント期間中の日本人宿泊客数は約44,000人と基準年(H18)に比べ約9,000人減少し、対前年数では、約4,000人の減少となっている。外国人宿泊客数は約7,700人と基準年(H18)に比べ約1,900人、対前年数では1,100人増加している。

③. 【実施中】小樽がらす市（中心市街地のソフト事業）
（小樽がらす市実行委員会）【再掲】P5 参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

「小樽雪あかりの路」は、官民が協力して実施し、57万人の来場者がある小樽の冬の代表的なイベントとなっている。期間中、市民を始めとするボランティアは、延べ約2,500人に及び、韓国や中国等の国外からも60名を超える人がこの期間中小樽に宿泊しボランティア活動を実施している。また、H22年度にはカップリングパーティ in 小樽雪あかりの路を実施し、道内外から30名の参加があり遠くは埼玉県から参加するなど各種イベントも実施しており、その魅力を高めることにより宿泊客の増加に貢献している。また、がらす市は平成21年度から新規に開催され、平成23年度には3万人を越す人で賑うなど主要事業の多くが概ね計画通り進められている。

しかしながら、当初想定していなかった厳しい社会経済情勢の影響による消費の手控えや東日本大震災により3月には4,000泊以上、4月には2,000泊以上の宿泊のキャンセル発生及びその後の旅行自粛等の影響により宿泊客数が大きく減少し、この減少分が各種事業の効果による宿泊客数の増加分を上回ったと考えられ、基準年に比べ、約44,000人の減少となり、想定した効果は充分には発現されておらず、このままでは目標達成は困難であると見込まれる。

落ち込んだ宿泊者の誘客を目指す新たな対策として国内の観光客向けに10,000人ウェルカム事業等の観光促進対策を実施するとともに、台湾や中国などへの観光客誘致のトップセールスの実施及び新千歳空港から小樽までの無料直行バスを運行する「ダイレクトアクセス事業」の試行等海外からの観光客の誘致促進も図っている。また、対岸諸国の経済発展に伴い増加が見込まれる日本海でのクルーズ需要に対応するため、小樽港がH23年11月に日本海側拠点港として国土交通省より指定されたことを受け、今後も更なる外国クルーズ客船の寄港促進を図ることとしており、クルーズを利用する観光客の増加が期待される場所である。

今後は、観光地としての中心市街地の魅力向上を目指すため、基本計画掲載事業の着実な推進に努めるとともに、旧丸井今井小樽店の再生、更には旧国鉄手宮線の整備等を行い滞在型観光に向けての取り組みを行っていく。